

新春の華やぎ

1月公演

義太夫節演奏会

解説

竹本 鶴澤

孝矢 朔弥

◆ 恋娘昔八丈
こいおすめむかしはちじよう

鈴ヶ森の段
すずがもり の だん

浄瑠璃 竹本 越里
三味線 鶴澤 弥々

◆ 由良湊千軒長者
ゆらのみなとせんげんちようじや

山別れの段
やまわかれ の だん

浄瑠璃 竹本佳之助
三味線 鶴澤 賀寿

◆ 傾城恋飛脚
けいせいこいびきやく

新口村の段
にのくちむら の だん

浄瑠璃 竹本京之助
三味線 鶴澤津賀花

◆ 新版歌祭文
しんぱんうたざいもん

野崎村の段
のざきむら の だん

浄瑠璃 竹本土佐子
三味線 鶴澤三寿々
ツレ 鶴澤 三響



鶴澤三響



鶴澤三寿々



竹本土佐子



鶴澤津賀花



竹本京之助



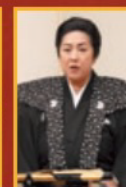
鶴澤賀寿



竹本佳之助



鶴澤弥々



竹本越里



鶴澤朔弥



竹本孝矢

なかの芸能小劇場

2026年

1/25 日

開場◎13時

開演◎13時30分

料金◎4,000円/全席自由
会員・学生・障がい者手帳をお持ちの方 3,000円
予約受付

2025年12月8日(月)10時30分より



お電話
または
メール



03-6264-3047



am-giday@gidayu.or.jp

※未就学児の入場をご希望の方は当協会までお問合せください

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

一般社団法人 義太夫協会

〒104-0045 東京都中央区築地4丁目3-12

秀和第二築地レジデンス706号室

TEL.03-6264-3047 FAX.03-6264-3048

●http://www.gidayu.or.jp/

●E-mail:am-giday@gidayu.or.jp

恋娘昔八丈

鈴ヶ森の段

【解説】

安永四年（一七七五）江戸外記座初演。松貫四、吉田角丸の合作。江戸の町で実際に起こった夫殺しの事件を元に、お家騒動を絡ませています。歌舞伎、新内などにも同じ内容の作品があり、多くの改作が生まれました。『髪結新三』もそのひとつです。

【あらすじ】

鈴ヶ森の仕置き場所には、許婚の喜蔵を殺したため処刑されることになった美しいお駒の顔を一目見ようと大勢の見物人が集まっています。お駒の恋人、才三郎が探している家宝の茶入れを盗んだのが喜蔵だとわかり、その喜蔵をお駒は思わず殺してしまつたのです。処刑の時刻が迫つたその時、喜蔵の一味である丈八を才三郎が縄にかけ、赦免状を手にして駆け付けます。お駒の縄は解かれ、一同喜びの涙となります。

由良湊千軒長者

山の段

【解説】

宝暦十一年（一七六一）五月大坂竹本座にて初演。竹田小出雲、近松半二らの合作による、初・中・後三巻の時代物。説教節「さんせう太夫」にはじまる「山椒大夫物」の一つで、先行作の竹田出雲作「三枅太夫五人嬢」によるところが多い作品です。

【あらすじ】

大江の郡領時廉の策略により父岩木判官政氏を失つた安寿と対王丸は、人買いにさらわれ、母は佐渡へ、姉弟は丹後由良の三莊太夫に売り渡されてしまいます。三莊太夫のもとで、山での柴刈り、浜での汐汲みの重労働を強いられる安寿と対王丸は、身の不幸を嘆きながらもお互いを思いやって暮らしていました。己の出自とはかけ離れた境遇の、あまりの辛さに対王丸は自害しようしますが、姉の安寿はそれをなんとか押しとどめ、二人は山へ浜へと涙ながらに別れて行きます。

傾城恋飛脚

新口村の段

【解説】

安永二年（一七七三）大坂豊竹比吉座初演。近松門左衛門の『冥途の飛脚』を菅専助、若竹笛躬が改作した世話物の代表作。

【あらすじ】

大坂淡路町の飛脚問屋亀屋の養子忠兵衛は、新町の遊女梅川と深い仲になっていましたが、梅川が身請けされそうになった為、商いの公金三百両を使い込んでしまいます。もはやこれまでも悟つた忠兵衛と梅川は、忠兵衛の故郷である大和の新口村へと逃げて行きます。新口村に辿り着いた忠兵衛と梅川は、ひとまず昔なじみの忠三郎の家に身を隠します。そこへ忠兵衛の実父孫右衛門が通りかかり、雪道に足を滑らせたところを梅川が走り出て高足駄の鼻緒をすげ替えます。追われる息子忠兵衛の嫁と気づいた孫右衛門はわざと心の内を語ります。追っ手が迫る中、互いに名乗れぬ三人は涙ながらに心の中で別れを告げ、忠兵衛と梅川は落ちて行くのでした。

新版歌祭文

野崎村の段

【解説】

安永九年（一七八〇）大坂竹本座初演。近松半二作。実際にあったと言われる心中を扱った作品です。武士の子である久松をめぐるお家騒動を軸に、男女、親子の愛、主従の義理が絡み合い紡がれていきます。

【あらすじ】

お家を取り潰された久松は、野崎村の久作の養子となり、油屋へ奉公に出ます。年の暮れ、奉公先から帰された久松に、久作は妻の連れ子お光と祝言をあげさせようと思いますが、そこへ久松を追って油屋の娘お染が現れ、久松と夫婦になれぬなら死ぬと迫ります。話を久作に聞かれ、諭された二人は互いに思い切ると誓いますが、奥の間で全てを聞いていたお光は、お染と久松は死ぬ覚悟であろうと察して、自ら髪を切って尼の姿で現れます。お染の母が現れ二人の仲を許し、久松は駕籠、お染と母は船に別れてそれぞれ油屋へと戻って行くのでした。

なかの芸能小劇場



●ご予約いただいたお客様は、当日受付にて入場料をお支払いください。

〒164-0001 東京都中野区中野5-68-7 TEL. 03-5380-0931

社会福祉会館「スマイルなかの」2階

JR・東京メトロ東西線「中野駅」北口より徒歩5分

義太夫協会会員・寄付募集中！

お申し込みは▼

一般社団法人義太夫協会は、義太夫節の向上普及・発展を目的として活動しています。義太夫節を多くのお客様にお楽しみいただき、次世代へと繋げていく事業をご支援いただきたく、「ご寄付」「賛助・特別会員」を募っております。



企画・制作●一般社団法人 義太夫協会 デザイン●TRIAD

次回2月公演

義太夫節演奏会

開演◎13時30分 [開場◎12時45分]

2026年2月23日 [月・祝] 深川江戸資料館小劇場

料金◎4,000円/会員・学生・障がい者手帳をお持ちの方3,000円